（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和３年度　学校自己評価システムシート（県立常盤高等学校）　s 36

目指す学校像	豊かな人間性、確かな知識・技術を兼ね備えた看護のスペシャリストの養成

重点目標	1　主体的な学びを促進する魅力ある授業を追求し、授業改善を推進することで、学力の一層の向上を図る。 2　教職員一丸で社会の変化に対応できる教育活動を実践することで、心身ともにたくましく規律ある生徒を育成する。 3　看護職への自覚を高めるとともに、看護師としての職業観・倫理観を育成するキャリア教育を推進する。 4　地域・保護者・関係機関との連携強化と効果的な情報発信により、愛され信頼される学校づくりを推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	５名
	生徒	７名
	事務局(教職員)	１２名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　2月　1日 現在）			実施日　令和　4年　2月25日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	**現状** ○授業や実習の大切さを第一に考える中で、コロナ禍によって従来の画一的な教育活動から変容の意識がある。 **課題** ○コロナ禍によって試行的に進んだオンライン学習との融合を目指し、より効果的な学習方法を模索することが必要である。 ○制限のある病院実習の代替えとなる効果的・効率的な校内実習体制の構築が必要である。	○育てたい看護師像に向けた学力定着と看護技術向上を図る。	①授業及び実習計画の精選を行い、ＩＣＴの活用と応用及び校内実習プログラムの構築をする。 ②ＩＣＴ機器の活用等や教員研修（対面・オンライン等）により授業力の向上を行う。 ③授業評価のために授業アンケートを行う。 ④実力テストの実施により、学習到達度を把握する。	①各教科・科目の授業で、シラバスや目標に近づく授業実践ができたか。 ②③授業に対しての興味関心及び理解度は向上したか。 （授業アンケート） ④生徒の学習到達度は向上したか。 （実力テスト）	昨年度に引き続きコロナ禍のため、ＩＣＴ機器を活用した授業やオンラインを活用した授業改善を行った。 ①全校生徒の個人端末にＢＹＯＤ回線を接続し、校内でのWifi環境を利用できるよう整備した。 ②昨年度以上に授業においてクロムブックやプロジェクタなどのＩＣＴを活用して、授業を展開した。 ③昨年度取り入れたgoogleFormによる授業アンケートを教員個人で活用し、授業改善に役立てた。 ④コロナ禍での分散登校や臨地実習の校内代替があり、制限のある中で工夫しながら学習に取り組んだが、実技の面で成果が難しい。	B	・今年度はコロナ禍によってオンライン学習の場面があったが、学習効果としては厳しいものがある。 ・ＧＩＧＡスクール構想に伴うＩＣＴ機器活用を推進し、校内でのＢＹＯＤ回線は整備できた。 ・臨地実習が校内代替であり、看護師としての実技指導及び意識向上の面で課題が残る。	・オンライン授業への支援策がなされている。コロナ禍ではあるが、様々な工夫や努力により学習成果を上げたことが伝わってくる。 ・授業や実習が思うようにできない中でも、知恵と工夫で実施している教職員や関係者の皆様には感謝している。 ・看護専攻科のカリキュラムが厳しいのか、休学する生徒が多いのが気になる。 ・コロナ禍で授業、実習など大変とは思いますが頑張って優秀なナースを育ててください。
2	**現状** ○多くの生徒は基本的生活習慣が確立されており、真面目で落ち着いた学校生活を送っている。 ○生徒指導部や各学年を中心に生徒へのきめ細やかな指導ができている。 **課題** ○組織的な指導体制を確立し、日常の生徒の様子を観察し、心のケアに取り組む必要がある。 ○一過的な指導ではなく継続的な生徒指導を行う必要がある。	○将来の看護師として、社会性のある心と態度を育てる。	①生徒指導部及び学年団を中心とした適切かつ積極的な声掛けにより生徒理解をさらに深め、指導体制を確立する。 ②生徒支援委員会をはじめ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど外部機関との連携により、個に応じた支援を行う。 ③学校行事や部活動及び校外活動における生徒の自主性を重んじ、積極性や協調性を育てる。	①組織的・日常的に生活指導を実施し、生徒の行動が変容したか。 ②計画的・継続的な指導により、生徒の生活状況や学校生活の満足度は向上したか。 ③コロナ禍で制限のある中、効果的な各種行事や部活動の実施ができたか。	看護科と看護専攻科の発達段階に応じた校則を整備し、生徒の社会性と心のケアにも配慮しながら生徒指導に組織的に取り組んだ。 ①看護科及び看護専攻科の発達段階を鑑み、それぞれに校則を改定した。また、夏服に紺ポロシャツ及び女子スラックスを導入し、生徒から好評を得ている。 ②生徒支援委員会といじめ防止対策委員会による情報共有を常に行い、迅速かつ組織的な対応を行った。 ③今年度もコロナの影響を受け、各種行事の中止や変更を余儀なくされたため、充実した行事を行うことができなかった。昨年度から形態を変えた文化発表会は、楽しみながら生徒の自主性を育むことができた。部活動も制限がある状態での活動であり継続的活動ができなかった。	A	・生徒の社会性を育成することが課題であり、自主性を促す指導必要である。 ・日々の生徒の変化や心のケアを注意深く観察し、組織的な指導を継続する。 ・学校行事は、実施時期や規模、内容を見直しながらより良いものを提案する。	・生徒支援委員会やＳＳＷ、ＳＣなどの専門職連携が十分になされており、組織的な対応による成果があった。 ・コロナ禍により、授業やイベントなどが制限されているなかでも、生徒が学校に楽しく登校出来るような声掛けや責任感を意識できるような指導に取り組んでもらいたい。
3	**現状** ○就職試験日程の早期化に伴い、個に応じた指導を行っている。 ○昨年度の看護師国家試験は全員合格であり、合格率は高い水準を保っている。 **課題** ○看護師国家試験の高い合格率を達成するために、計画的・継続的な指導を実践することが必要である。 ○高校生からの段階的な進路指導体制を整理し、早い段階から自発的・能動的な進路意識を育成することが必要である。	○なりたい看護師像の追求及び看護師国家試験合格を目指す。	①進路の手引きの見直しを図り、進路ガイダンスを実施することで、低学年から進路情報を提供する。 ②キャリアプロジェクトにてポートフォリオを活用し、将来の「ありたい像」を育てる。 ③コロナ禍の制限がある中でより効果的な病院説明会や進路講話、修了生懇談会等を行い、生徒の進路希望実現を支援する。 ④看護専攻科及び進路指導部と学年が連携し、看護師国家試験対策及び	①効果的な進路行事を提供することができたか。 ②キャリアポートフォリオを作成することができたか。 ③生徒の進路希望を実現できたか。 ④高い看護師国家試験合格率を達成できたか。 ④進学希望者の進学が実現できたか。	若年層からのオンラインを活用した進路情報の提供及び進路意識向上。 ①コロナの影響により、集合形式の進路行事は中止や変更を余儀なくされたが、オンラインを活用した進路行事を行った。 ②キャリアポートフォリオを作成し、自分の成果と将来計画が明確化された。 ③今年度も、個別に面接・履歴書指導などを行い就職希望者はほぼ全員が内定することができた。また、現在看護師国家試験全員合格に向けて指導している。 ④進学希望生徒向けに受験指導を行い、約１割の生徒が大学への編入及び助産師学校への進学が決定した。	B	・高校生や専攻科１年生からの早い段階から進路意識を醸成させ、働きたい病院を見つける。 ・キャリアポートフォリオを作成し、なりたい看護師像を自己形成する。	・看護師はもとより、進学希望の生徒向けの受験指導を行うなど個に応じた対応がなされている。 ・進路については、年々早くなっている就活に対応できるよう早めの取組ができているのは評価できる。
4	**現状** ○連携病院や大学並びに保護者の協力により、専門性の高い教育活動が円滑に推進されている。 ○県内各地から、看護師を目指す生徒が集まってきている。 **課題** ○昨年度のノウハウ（ホームページ・一斉メール・高大連携等）をさらに活用し、保護者・地域・関係機関との連携を強め行事等への参画意識を高める必要がある。 ○医療機関及び大学、地域や保護者と連携し、よりよい情報交換を行うことで課題を発見し、教育活動を改善することが必要である。	○情報機器等の活用について環境や体制を整備し、保護者・地域・関係機関との連携強化を促進させる。	①外部向けイベント（学校説明会、産業教育フェア等）への積極的参加により、本校の魅力を発信する。 ②客観的評価や課題解決のため保護者アンケートを行う。 ③学校ホームページ（常盤ブログ等）更新や一斉メールの活用により、保護者への情報発信頻度を高める。	①学校説明会・体験入学の参加者を増加させ、志願者数は増加したか。 ②本校の現状と課題を把握し、改善策を考察することができたか。（保護者アンケート） ③ホームページのアクセス数は増加したか。	コロナ禍により、外部との相互連携は難しい状況にある。そこで、本校からの情報発信コンテンツを増やすことで、本校の魅力発信を行った。 ①学校説明会（10月・12月）の回数は減ってしまったが多くの中学生（176組）が参加した。志願倍率1.26倍(1月現在)となった。 ①全国産業教育フェア埼玉大会にてオンライン開催であったが、看護科及び専攻科から１組ずつ成果発表を行った。 ②保護者アンケートの結果、本校への満足度90％の肯定的評価を得た。 ③常盤ブログ（毎日1回更新）の継続とホームページ上に学校紹介動画を作成し、学校と生徒の様子を発信できた。	A	・コロナ禍の状況を好機として、今までの概念とは違ったアプローチを考える必要がある。 ・継続して、生徒の活躍を外部に情報発信することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに本校の魅力をアピールする。 ・本校の生徒には、外部との情報交換の機会を与えることで社会性を身につける必要がある。	・コロナ禍において地域との連携については難しい中でも情報発信に取り組んでいるのは評価できる。あとは、受信する側に立って魅力ある内容にしていくことが次の段階では必要になってくる。 ・保護者については、式典等で参加できない（１名のみ参加のため）人のためにライブ配信なども検討すると良いと思う。（限定公開としてＵＲＬを通知するなどの制限が必要） ・生徒、学校、家庭がより連携して、コロナ禍でも看護師を目指す意欲をなくさせないようにしていきたい。